

## 猪高緑地 すり鉢池のウシガエル・アメリカザリガニ捕獲

2022年8月16日 名東自然倶楽部 高木和彦

2021年11月14日 すり鉢池の池干しを行い、水生生物を捕獲しました。在来種に関してはなごや生物多様性センターに預かって頂き、2022年4月16日里帰りさせました。<http://sizen.ciao.jp/news/20220416.pdf> 外来種は駆除して頂き取り除きました。

池干し時の捕獲では、アメリカザリガニの捕獲は少なくブルーギルや大きなコイといった天敵を取り除いた為、大発生する恐れが有りました。又、ウシガエルも期待したほどの数の捕獲が出来なかったため、池干し前より多くなる恐れがあると予想していました。

その為、昨年続き、なごビオの事業として今年もウシガエルとアメリカザリガニの捕獲を行いました。日々の見回り・捕獲を名東自然倶楽部員が担当しました。ニホンアカガエルの上陸が今年は水不足の為か遅かった為、6月20日スタートとなりました。(昨年は6月1日)

結果は下記の表となりました。

期間	2021		2022		
	6/1～7/30	11/13池干し	6/20～8/3	0.75 換算	2021と の比較
日数	60	1	45		
アメリカザリガニ	1,691	320	1,750	2,333	1.38
ウシガエル	33	3	19	25	0.77
ウシガエル幼生	229	289	0	0	0.00
ブルーギル	111	3,386	0	0	0.00
コイ	2	15	0	0	0.00
ミシシippアカミミガメ	4	0	1	1	0.33

昨年より捕獲日数が25%少なかったため60日と比較するため、4/3倍して比較しました。アナゴ罟の数は、昨年25個、今年は30個仕掛けました。(1.2倍)

11/13池干し時のデータは「すり鉢池池干し実行委員会」すり鉢池池干し実施報告書による

**アメリカザリガニ** 心配するほどではありませんでした。

昨年より捕獲匹数は40%位増えています。但し、昨年より小型化していると思います。(昨年は重さを量っていないので定量的には分かりません) 池の中に入っていくと、昨年より逃げていくザリガニが少ないように思います。また、捕獲していても、纏めて袋に入れる時、量的に昨年より少なく感じました。

昨年より減っているように思われるが、捕獲数が増えている理由は

- ① 昨年に対して、浅いところでの捕獲に対策を行いました。溝状に穴を掘り、アナゴ罟の入り口まで水が来るようにしました。
- ② 罟の数を1.2倍に増やしたこと
- ③ 大きなザリガニが減っているので、ザリガニが少なく感じるではないかと思います。

**ウシガエル** 2割以上少なくなっている

**ウシガエル幼生** 今年捕獲 0でした。池干しの効果と思います。昨年産まれたオタマジャクシが居なくなった為と思われます。但し、罟の網を通り抜ける小さなオタマジャクシは今年も目撃情報があります。来年以降急激に増加する恐れがあります。

今年1月～3月の降水量が非常に少なく、水が戻るのが遅かったため、池干し期間が長くなりました。その影響が、アメリカザリガニやウシガエル、ウシガエルのオタマジャクシに現れている可能性があると思います。

**ブルーギル** 今年捕獲 0でした。池干しの効果と思います。但し、アナゴ罟の編み目を通過出来る小さなサイズのブルーギルが目撃されているので、来年以降の捕獲が必要となります。

**コイ** 今年捕獲 0でした。池干しの成果と思います。

**ミシシippアカミミガメ** 昨年の3分の1でした。池干しの効果ではなく、昨年仕掛けたアナゴ罟と浮島型捕獲器の効果と思います。

来年以降、ウシガエルとアメリカザリガニが増加する恐れがあります。来年度以降も捕獲活動を行いモニタリングします。

別途、なごビオによるモニタリング調査が行われています。この報告はアナゴ罟を使った捕獲調査のみについて記載しました。

P.S. 残念な事に誰かに**カダヤシ**を投げ込まれ、多くのカダヤシが目撃されています。  
(池干し時には一匹も確認されていませんでした。)